志免四だより

平成30年3月
第９６号

発行所
志免四公民館
志免町志免1丁目1-8
TEL 092-935-0466
責任者
志免四公民館主事
佐藤一男（935-0858）

資源物回収　環境部

3月11日（日）8時から行います。小雨決行。（雨天時は3月25日に延期）

【集積場所】志免四公民館・岩崎神社・各組合の指定場所。

※ビール缶などは（アルミ、スチール）、プルタブを取って出してください。

子育てサロン　福祉部

小さい子どもさんとその保護者の方、公民館で同じ年頃の子ども同士一緒に過ごされませんか。ボランティアによる食事を準備しております。午前中は移動図書館もあります。一般の方もご利用ください。

日時　3月13日（火）午前10時から午後3時まで

場所　志免四公民館

うきうきルーム　総務部

今回は音楽サロンを行います。懐かしい歌を歌ったり、楽器に触れ、音楽を楽しむことで心身をリラックスさせます。身体機能・認知機能などの維持に役立つ音楽に気軽に触れてみてください。

日時　3月24日（土）午前10時から

場所　志免四公民館

ふれあいいきいきサロン（福祉部）

お花見

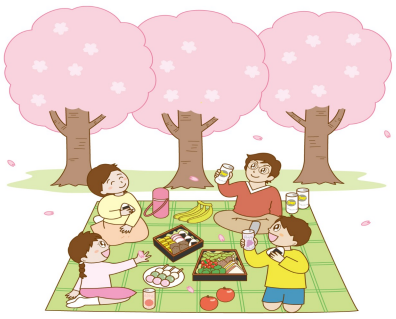
今年も、公民館で桜を鑑賞しながら、楽しい「お花見の会」を開催します。食事をしながら歓談し、参加者皆さんの交流と親睦を図ります。カラオケも準備していますので、多くの方の参加をお待ちしております。

日時　3月31日（土）午前11時から

場所　志免四公民館

準備の都合上、参加を希望される方は3月20日までに各組の組長さん又は町内会役員まで申し出て下さい。

【連絡先】各組の組長さん
町内会役員
会長：古賀　090・6278・1377
主事：佐藤　090・3413・0054
福祉部長：立石　070・6587・7600



かるた大会

2月3日（土）シーメイトにて第4回志免町炭鉱かるた大会が開催されました。志免四からは低学年・高学年3名ずつ各1チームが参加しました。残念ながら予選敗退となりましたが、子どもたちは真剣なまなざしで白熱した戦いを見せてくれました。

公民館レクリエーション　育成部

2月10日（土）志免四公民館にて公民館レクリエーションを開催しました。当日は約50名の子どもたちや保護者の方々にご参加いただきました。

プロペラを使った工作、はぎれシュシュ&マスクバンドエイド作りの体験講座の他、館内に設置されたクイズラリーで景品のお菓子をゲット。2Fに用意したキッカターゲットやストラックアウトで汗をかいて遊ぶ子どもたちの姿が印象的でした。

町民綱引き大会　体育部

1月28日（日）町民綱引き大会が行われました。志免四町内会からは男女1チームずつが参加し、結果は、男子チームが予選1勝1敗で惜しくも決勝トーナメントには進む事ができませんでした。女子チームは、全勝で決勝トーナメントに進み、準決勝では桜丘中央公民館に勝ち、決勝戦では王子八幡公民館に負けてしまい惜しくも準優勝でした。しかしながら、チーム志免4の団結力は素晴らしいものでした。来年はダブル優勝を狙いたいと思います。参加いただいた皆さん、応援してくれた皆さんありがとうございました。

豊夢部屋（ホームルーム）

みんなで楽しくクッキング　福祉部

2月17日（土）に豊夢部屋で「みんなで楽しくクッキング」を行いました。40名ほどの参加があり、皆で「お好み焼き」を作りました。高齢者と子供たちが一緒にキャベツを刻んだり、豊富な具材をお好み焼き粉と混ぜ合わせた生地を作ったりし、その生地をフライパンに流し込んだりして、焼き上がったところで、ソースを塗り、青のりや鰹節をトッピングし、熱々を頬張りお腹一杯いただきました。自分で作ったものを食べるのはうれしくて、楽しいひと時を過ごしました。参加した小学生は、またお家でも作りたいと笑顔で話していました。

子供会親善レクリエーション

綱引き大会　育成部

2月18日（日）町民体育館にて第40回親善レクリエーション綱引きが実施されました。計41チーム、約550名の子どもたちが参加しました。志免四からは高学年、低学年各2チーム、計44名が参加し健闘しましたが残念ながら決勝進出はなりませんでした。どうやらシューズ選びも重要なポイントのようです。

花見のルーツ

ひとつの説は貴族文化的なものです。奈良朝の貴族にとって花といえば梅でした。それが平安朝に入って梅に変わって桜の花見が貴族の重要な行事となりました。812年、嵯峨天皇が南殿で宴を催したのがお花見の最初の風習と言われています。

もうひとつの起源は農民文化的なものです。春になると里のものが飲食物を持って近くの丘や山に入りました。お花見は桜の咲き具合でその年の豊凶を占う農事であり、古くから行われていたと考えられています。

花見は桃山時代には武家の間でも流行しました。豊臣秀吉の醍醐の花見はその豪華さで最も有名です。その後、江戸時代に入ってから農耕儀礼から切り離され、貴族の公式行事から離脱し花見は庶民の行事となりました。

江戸幕府は、都市計画の目的で大々的な桜の植樹を行いました。とりわけ徳川吉宗は都市と農村の接点である江戸の周辺部に植樹し、花見の名所が生まれました。花見が都市周辺部で開かれたことで花見の大衆化につながりました。